いきいき坂元台

坂元台校区
社会福祉協議会

発行責任者 後田和子
（電話）247-6293

印刷：ムラタ印刷
（電話）247-6498

「明るい未来の街づくり」事業紹介

社協会長　後田　和子

鹿児島市が薦めている校区内の老人クラブ、あいご会の子ども達、町内会の人達とのふれあい絆づくりについてさまざまな行事を我が校区では実施しております。

前号で紹介したグランドゴルフ大会やふれりんぴっく（ゲーム大会）など家族ぐるみで参加でき、お年寄りから子ども達、そしてその保護者が一緒になってお互いを褒め合ったり慰め合ったりして楽しんでいる姿から「良い絆つくりができている」と実感することでした。

ここまで来れたのは七年の歳月の中で老人クラブ、町内会、あいご会、グランドゴルフ愛好会の皆さんの惜しみない賛同があったこと。また、子ども達の大切な教育の場である校庭や体育館をお貸しくださった学校。また、それにふさわしく早朝からの準備、終わった後の清掃までいつもしっかりとやってくださった方々。一人ひとりの心ある行動に子どもや保護者の方々も動かされ、一緒になって取り組んでおられた姿に初期の目的は充分に達成できたのかなと思っております。そしてこのようにして形成された「絆」を大事にしていかなければならないと思っております。

一方では、これから二〇二五年の七十五歳以上の人の加入のピークに向けて高齢化に伴う認知症の予防について一人ひとりが取り組む必要があります。

人生百年時代と言われる今、長くなった人生の時間を輝かせるヒントを認知症研究者の第一人者であり、認知症専門の医師長谷川和夫先生ご自身が認知症になられたことから学ぶことができます。

それは「『認知症を専門にしていた僕ですらなるんだから年を取れば誰でもなる』でもすべてのことがダメになるわけではないので、認知症の人も皆と同じように悩んだり悲しんだり喜んだり……人間として普通の感情があるから。誰か杖になる人を見つけて人と人との『絆』が大切だ。心の絆をいくつも持っていて暮らしていける社会にしていくこれが地域ケアなんだな」と言っておられます。悲観ばかりしないで明るく自立に向けて重荷にならないよう取り組む覚悟が必要になりそうです。

そんな長谷川先生の考えを大事に思い、校区では先日のグランドゴルフ大会を「まだ一度もグランドゴルフをしたことのない人」限定で実施しました。参加した方々から「こんなに楽しいものだと思わなかった。またやりたい！」との感想をいただきました。

また自立を目指すために歯の勉強もしました。これからも一層ふれあいの場を深め、いつでもどこでも誰にでも相談できるまちづくりを続けていきたいと感じています。

元気高齢者　市来アイ子さん（93歳）

玉里団地二丁目にお住まいで、何時も穏やかな笑顔が絶えない市来アイ子さんは、昭和二年生まれ今年九十三歳になられます。

現在息子さんご夫婦と同居され、川柳の句作、老人会（玉寿会）の諸行事への参加、散歩と元気に過ごしておられます。

川柳は雑草社に所属し、同人誌「雑草」に定期的に寄稿されています。句歴は三十余年、最近は作句の構想がなかなかわかないと嘆いておられますが、ご自身の近況や事相を巧みに捉えた作品はさすがです。

最近の作句から

今だけと甘い誘いが来て困り
横綱が欠けて若手が勇み立ち

延岡で女学校を卒業、鹿児島の栗野で小学校教員を数年勤められたとのこと。昭和二十年前後の当時は、学徒動員や終戦の混乱で多難な時代を過ごされたようです。

昭和五十年に現在地に居を構えられました。自宅で和裁教室を営む傍ら、公民館教室で詩吟や川柳を学ぶなど、知的好奇心旺盛な生き方が何時までも衰えない体力・知力の源になっておられるようです。

（東第一町内会長　片野田　勝海）

ふれあい昼食会（東第一町内会）

町内会主催で、お一人暮らしの高齢者、応募した子供たちとその保護者、そして世話役の町内会役員総勢30名での昼食会は12月８日町内会の集会所で実施されました。

昼食会の前には片野田町内会長がゴルフ場から拾ってきた“松ぼっくり”を使ったクリスマスツリー作りでにぎわいました。

大きな松ぼっくりに絵の具で色付けし、そこに雪代わりの真綿やビーズなどを装飾して皆さん個性のある見事なツリーが出来上がり、記念のお土産になりました。

その後の昼食会は代表の子どもの「いただきます」に合わせてにぎやかな食事や、片野田会長のなぞなぞの出題などで楽しい一時を過ごしました。（鐵）

今年も社協でぜんざいを

十五回目を数える坂元台校区の生涯学習発表会は好天の十二月一日（日）に小学校の体育館で実施され、歌や踊りなど十五項目の演題でにぎわいました。

坂元台校区社会福祉協議会（以下社協）では、今回も発表会のために前日から三百食のぜんざいを準備し、発表会で演奏などに出演した小・中学生と鹿商高校生など九十名には無料で、また、一般の参加者や観客には一杯百円で販売し、準備した三百食では少し不足気味の大人気でした。

ぜんざいに不可欠な切り餅は、大口産の餅米を使い、社協の後田会長が準備されました。また、準備から当日の販売等も社協会員（ほとんど民生委員）のボランティアで行いましたが、ぜんざいを食べた方々や発表会の実行委員の方からも「おいしかった～」の大好評を得て、「次回も頑張ろうね」と、一年先のことに意欲を燃やす反省会でした。

（ぜんざい大好き社協会員）

雨二モ風二モ負ケズ

西坂元町　久本　勝紘

十二月二十二日、西坂元町公民館の前庭で恒例の餅つき大会がありました。石臼と杵を用いる昔ながらのスタイルです。折からの悪天候でしたが、子ども三十人を先頭に元気いっぱいの七十人余りが集まりました。

コメが蒸しあがり、いよいよ本番というところで雨脚は強くなり、そのうえ強風も吹き募ります。雨よけに張ったブルーシートが支柱の土台ごと巻き上げられ、かまどの炎も吹き消されそう……。それでも皆が手を止めません。黙々と薪をくべ、子どもたちも代わるがわるぺったんこぺったんこ、と杵（きね）を振るい続けます。

こうして三時間余、洗米四十㌔は「あんころ餅」や郷土伝統の「からいも餅」に変身しました。つきあがりの熱々は早速、子どもたちの手で町内の独居高齢者宅へ届けられ、心の底から温まって頂いたのです。

玉寿会忘年会（東一区町内会）

玉寿会では12月20日にファミリアンにて恒例の忘年会を行いました。

今回の忘年会は「瑞宝双光章」を受賞された野崎正昭会員の祝賀会を兼ねたものでした。

参加者は23名で、記念撮影から始まり、会長に続き、先に受賞された石塚修身会員からの挨拶の後、高らかな渋谷末成会員乾杯の音頭で賑やかな宴会が始まりました。

ほぼお腹も満たされた頃を見計らって、余興が始まり、また、全員で持ち寄った景品を並べて、これも恒例の「ビンゴゲーム」が始まりました。歓声の中、ビンゴの人から次々に目ぼしい景品をゲットし、“はずれ”なしのゲームなど楽しいひと時でした。

最後に玉寿会の歌を合唱し、司会者から新年会の案内の後、坂口俊一会員の力強い万歳三唱で和んだ宴会もお開きとなりました。

（玉寿会広報部）

はるかな時代

坂元本町「おせんし会」は昨年十月二十九日に国分・福山方面へ〝秋の一日研修バス旅行〟に行きました。

当日は朝から雨で心配されましたが、時間とともに回復し、空は高く青く、白い雲が浮かんで絶好の旅行日和となりました。

国分の上野原縄文の森では約一時間、館内で映像や展示物を見たり、屋外では〝竪穴式住居〟などを見学。ほんの一時でしたが、はるか遠い縄文の風を感じられたような気がしました。

その後バスはお酢の町福山町へ向かい黒酢畑を見学後、お待ちかねの〝黒酢料理〟を美味しくいただきました。

帰路の途中に立ち寄った蒲生八幡神社では、長い年月（樹齢約千五百年）を経て神々しくそびえ立つ〝大クスの木〟に圧倒されました。

バス旅行に参加された皆様方には楽しんでいただけましたか？また次回も楽しい旅行でご一緒しましょう。（原田）

子育てサロン便り

十二月の子育てサロンは毎年恒例の「クリスマス会」です。十一組十五名の親御さんの参加で校区公民館二階ホールがいっぱいになりました。

辻ケ丘幼稚園の先生による工作指導やパネルシアターがありました。ママと一緒にサンタのソリを作り「クリスマスがやってきたー」とソリを引っ張って楽しくはしゃぎ回りました。

いよいよお待ちかねの本物のサンタクロースの登場です。袋いっぱいのプレゼントをこども達に届けに来てくれました。こども達のキラキラとまぶしい笑顔と「ありがとう」の声にお手伝いの民生委員も思わずほほえみがこぼれます。

いつの時も、幼いこども達が元気で明るく泣いたり笑ったりしながら生長していく姿を見るのが活動の張り合いとなっています。

来年度も楽しいサロンを計画しています。ぜひ、皆様お声をかけ合ってお越しください。お待ちしています。

（智子）